

桑野小学校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①「ユニバーサルデザインの視点を活かした分かりやすい授業の構築」
- ②「すべての学習活動における各学年の発達段階に応じた言語活動の充実」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長 教頭 教務主任 特別支援教育コーディネーター 研修主任	武田 國宏 山本 正弘 久米 美枝子 久保 文香 久米 和美
	校長	武田 國宏 印	

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	与えられた学習課題にはまじめに取り組むことができ、漢字の読み書きや基本的な計算については、70～80%程度の定着が見られる。	①各学級の80%以上の児童が、単元テストにおいて、正答率を80%以上にする。 ②大事なことを的確に聞く、読む、考えたことや伝えたいことを的確に話す、書くことができる児童を各学級で90%以上にする。	読む活動を重視した指導内容を充実させる。	○研究授業だけでなく、日々の授業においてもユニバーサルデザインの視点を活かし、指示・情報伝達の視覚化や焦点化に意識して取り組んだ。 ○既習事項の掲示、ドリルタイムでの反復学習の実施等により、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図った。	○各学年とも落ち着いて学習に取り組み、基礎的・基本的な知識や技能の定着・向上に確実な成果が見られた。成果指標に示された数値もほぼ達成できた。
課題	学習の積み重ねが難しく、知識・技能の定着が困難な児童がどの学年にもいる。語彙数が少なく問題を読み取る力や文章を書く力が弱い。	①授業において、ユニバーサルデザインの視点を活かした指示の出し方や板書の工夫を図る。 ②各単元の重要な内容の反復学習を計画的・継続的に実施する。	取組の継続	評価	次年度における改善事項
	①授業において、ユニバーサルデザインの視点を活かした指示の出し方や板書の工夫を図る。 ②各単元の重要な内容の反復学習を計画的・継続的に実施する。	①研究授業の学習指導案において発問・板書計画を立案し、授業研究会で検討する。 ②1週間に2回、朝の活動を国・算のドリルタイムとして実施する。		B	○子どもの実態に即した課題解決的な学習を取り入れた単元を開発し、目的や意図に応じて必要な情報をとらえながら読む活動を充実させる。 ○各教員の知識・技能の定着のための学習の実践についての情報交換を行い、より効果的な知識・技能の定着のためのよりよい学習方法の確立を目指す。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	学級の中だけでなく、全教朝会や様々な集会等においても、自分の考えを最後まではっきりと伝えることができる児童が多くなる。	「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが得意」と答える児童の割合を80%以上にする。	取組の継続	○ホワイトボードやタブレット端末を活用したペア学習・小集団学習を積極的に取り入れ、話し合う場を設定した。 ○話し合いの手順や役割を示し、全員の参加を促進した。	○授業においては、理由や根拠を明らかにしながら自分の考えを話すことができる児童が増えてきた。学校評価児童アンケートにおいても、話す・書く力が向上したと回答した児童が、80%を超えている。
課題	自分の考えの基となる情報を収集したり、整理・分析したりする力が弱い。自分の考えの根拠や理由を明確にして、筋道を立てて文章で表現することに課題がある。	各学年の発達段階に応じた課題解決的な学習、言語活動の充実という視点を踏まえて、1人年1回以上研究授業を行う。		評価	次年度における改善事項
	①課題解決的な学習・探求的な学習を積極的に取り入れる。 ②すべての学習活動の中に、ペア学習・小集団学習を積極的に取り入れ、「聴く・読む・書く・話す」活動を充実させる。			B	○ホワイトボードやタブレット端末をより効果的に活用したペア学習や小集団学習の取り入れ方を探り、「聴く・読む・書く・話す」活動の充実を図る。 ○目的意識を持ち続けて学習に取り組むことができるような課題解決的な学習・探求的な学習の単元を開発する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	与えられた学習課題や家庭学習にまじめに取り組む、ほぼ100%の児童が課題の提出ができています。	①「家庭学習の手引き」に示されている家庭学習の時間の達成率が90%以上 ②学校図書館からの図書貸出数が年間30冊以上の児童が全体の80%以上	家庭学習の手引きの活用を推進し、家庭での望ましい時間の過ごし方や学習時間の計画についての指導を行う。	○毎月1回「家庭読書の日」を設定したり、オリジナルブックリストを作成したりして、読書の習慣化を目指した取り組みを行った。	○公立図書館と連携し定期的に学級文庫の本を入れ替えたり、地域のボランティアグループによる読み聞かせを定期的に行ったりすることにより、読書への関心が高まった。成果指標の達成には至らなかった。
課題	自ら課題を見つけて自主的に学習に取り組むことが苦手で、読書の習慣が十分身に付いていない。	①がんばって授業に参加しているという児童の割合を90%以上にする。 ②月1回以上、自主学習ノート等の紹介や伝え合う場を設定する。 ③毎月1回「家庭読書の日」を設ける。		評価	次年度における改善事項
	①授業において、児童が主体的に課題解決・探求することができる場を設定する。 ②学校で出す家庭学習を工夫し、学校・学級便りや家庭学習の手引で家庭学習の習慣化・読書の習慣化を図る。			C	○ゲームやインターネット等をしている時間が非常に長い児童が多くなることから、家庭での望ましい時間の過ごし方について指導し、家庭への啓発を行う。 ○児童が自主的に調べたり、探求したりしたことを発表できる場を設定し、児童の主体的な学習活動を推進する。

平成27年度 学力向上ロードマップ

